3-(5)事業報告書

1.平成23年度法人の概要

設置する大学の組織（平成23年5月1日現在）
設置者　学校法人東北芸術工科大学

所在地　山形市上桜田3丁目4番5号
設置する大学　東北芸術工科大学

■設置する大学の概要　　平成23年5月1日現在　（人）

		入学定員	収容定員
芸術学部	美術史･文化財保存修復学科	20	80
	歴史遺産学科	24	96
	美術科	142	543
	文芸学科	35	35
デザイン工学部	プロダクトデザイン学科	60	230
	建築･環境デザイン学科	55	215
	グラフィックデザイン学科	55	165
	映像学科	50	150
	企画構想学科	40	120
	情報デザイン学科	-	55
	メディア･コンテンツデザイン学科	-	75
学部合計		481	1,764
大学院	芸術工学研究科（博士課程）	5	15
	芸術工学研究科（修士課程）	25	50
大学院合計		30	65
総計		511	1,829

■教職員概要（平成23年5月1日現在）

教員	111名
職員	102名

■在学生数（平成 23 年 5 月 1 日現在）

芸術学部	898 名
デザイン工学部	1,223 名
芸術工学研究科	142 名
合計	2,263 名

■役員（平成 23 年 5 月 1 日） 理事 17 名／監事 3 名

理事長　徳山詳直
副理事長　古澤茂堂
常務理事　坂元　徹
常務理事　高久正史
理事　根岸吉太郎
理事　入間田宣夫
理事　山田修市
理事　片上義則
理事　五十嵐眞二
理事　野村真司
理事　北村誠
理事　熊谷眞一
理事　高山克英
理事　寺脇研
理事　徳山豊
理事　細谷伸夫
理事　本間利雄
常任監事　清宮久子
監事　遠藤栄次郎
監事　松尾正城

2.平成 23 年度事業実績

1)　東日本大震災に伴う学生支援状況について
平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災において被災した学生に対し、学費減免制度を整備しました。具体的には、人的、物的被害状況に応じて、入学金の免除、授業料の全額、半額免除などの措置をとりました。原発事故の影響を含め、事態は日々深刻化していますが、当制度は短期的なものではなく、在学生については、要件により卒業年次（平成 26 年度）まで、また平成 24 年度、平成 25 年度入学者については、被災者支援特別入学試験を実施しています。
震災直後に予定していた平成 22 年度の卒業式はやむを得ず延期としましたが、改めて平成 23 年 10 月 2 日に式を執り行い、365 名の卒業・修了生とその保護者 293 名が参集しました。式は黙とうから始まり、全員の無事を確認するとともに、これからの東北の再生に向けて前進していく誓いの式となりました。

2)　学生募集状況について
昨年度と比較し、志願者は 257 名（昨年比 11.7%）の増加となりました。平成 23 年 4 月より、芸術学部に新たに文芸学科を設置しましたが、35 名の定員に対して 187 名の志願者があり、好調なスタートをきることができました。

3) 就職状況について
平成 23 年度の学部卒業生 397 名の進路は、就職希望者 275 名中、就職者が 218 名（内定率 79.3%）、進学者は 35 名でした。震災の影響があり、大変厳しい状況の中、進路先は多岐に及んでおりますが、中には教員採用試験に合格し、教職に就いた学生もいます。

4) 開学 20 周年記念式典の開催について
平成 23 年 5 月 22 日、約 230 名の方々よりご出席いただき、開学 20 周年記念式典を執り行いました。吉村美栄子山形県知事、市川昭男山形市長、河田悌一日本私立学校振興・共済事業団理事長よりご祝辞をいただきました。徳山詳直理事長、根岸吉太郎学長からは感謝の気持ちとともに新たな「芸術文化運動」の闘いについて決意が述べられました。また式典終了後、東日本大震災被災者への鎮魂の祈りをこめ、京舞が披露されました。

5) 東北復興支援事業について
東日本大震災の復興支援事業として、現地でのボランティア活動、避難されている方々を対象とした各種ワークショップ等を実施しました。ボランティア活動は、平成 23 年 5 月から平成 24 年 3 月までの毎週土曜日、計 39 回のべ 1,461 名の学生、教職員、一般参加者（他大学生含む）が石巻市で活動を行いました。また、山形へ避難されている家族を対象として、アート系のワーショップや日帰りピクニックなどを開催しました。特に南相馬市から小学生中学生とその家族 105 名を招待し、学生・教員と共に作品を制作するというプログラムのワークショップを行い

ました。また姉妹校の京都造形芸術大学との共同事業の一つとして、宮城県女川町の仮設住宅に設置する収納棚などの簡易家具の制作と取り付けを行いました。(「VAN 女川町プロジェクト」)。
今後とも、東北に存在する芸術・デザイン系大学として何ができるかについて問いかけながら、復興支援事業を継続していく予定です。

3 教育

1) 学部

平成 23 年度は、平成 21 年度に開設した新学科、新カリキュラムの3年目として更なる教育内容の充実に向けて全学的に取り組んできました。
デザイン工学部はグラフィックデザイン学科、映像学科、企画構想学科の学科が3期目となり、学部全体で 320 名が入学しました。
芸術学部では美術科の「テキスタイル」、「版画」がコースとして独立し、芸術活動を通して人々の生活を豊かなものとしていくことを目指す「総合美術」コースがそれぞれ3年目となり、275 名が入学しました。
　また、カリキュラムの改革を主導する教養教育センターが発足3年目となり、初年次少人数ゼミ科目である「教養ゼミナール」の更なる改革のため「農芸体験」を取り入れたクラスと各種造形活動をグループで行うワークショップクラスの 2 系統の新カリキュラムを導入し、新入生の学びに主体性を持たせること、身体知を取り戻すことに成果を得ることができました。
これまで独立していた学生支援、教務、就職支援の3部門を「教学事務室」という 1 つの部門への統合も3年目をむかえ、各学科に専任の事務局職員を配置する体制により、教職員の連携は円滑になり、進路・就職支援では有効に機能しました。
平成 24年度の就職をとりまく状況は、より一層厳しくなるものと予測されています。全学でのキャリア支援の強化を図るべく、教学執行部を中心とした教員主導の就職指導に力を入れていきます。

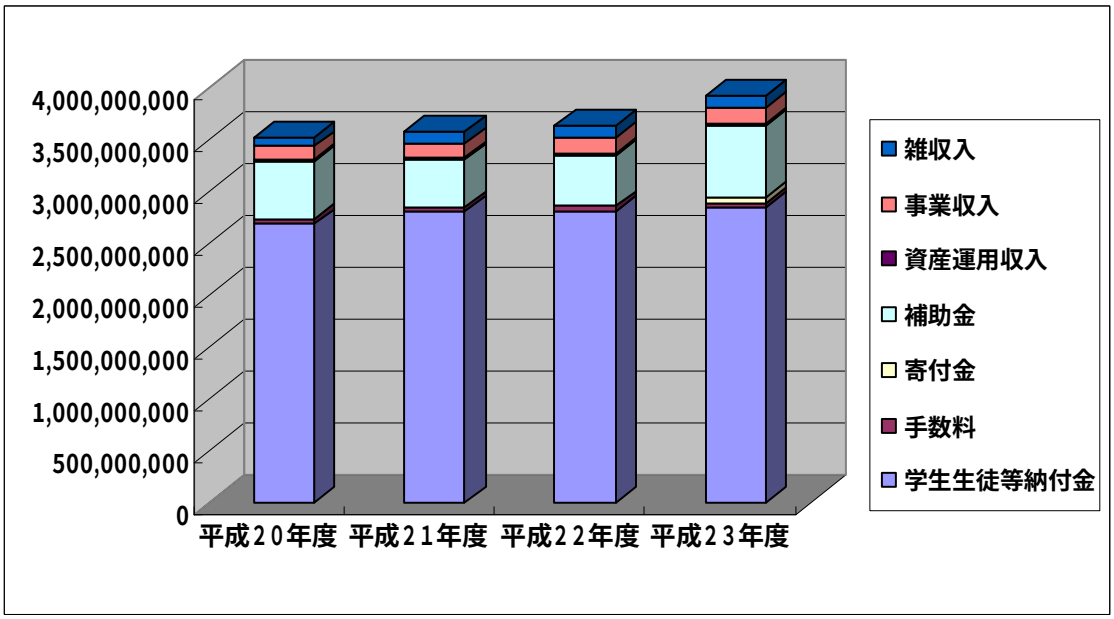
2) 大学院

平成 23年度は大学院全体で 142 名が在籍し、芸術文化専攻 43 名、デザイン工学専攻 29 名(うち仙台スクール 16 名)の計 72 名が修士号を得ました。
大学院の学生募集は、芸術文化専攻 29 名、デザイン工学専攻 16 名(仙台スクール 8 名を含む)と、年度により増減はあるものの安定した志願者を集めております。
デザイン工学専攻は、学部の学科再編にともなう領域再編と、研究指導体制の見直しを継続して推進していきます。

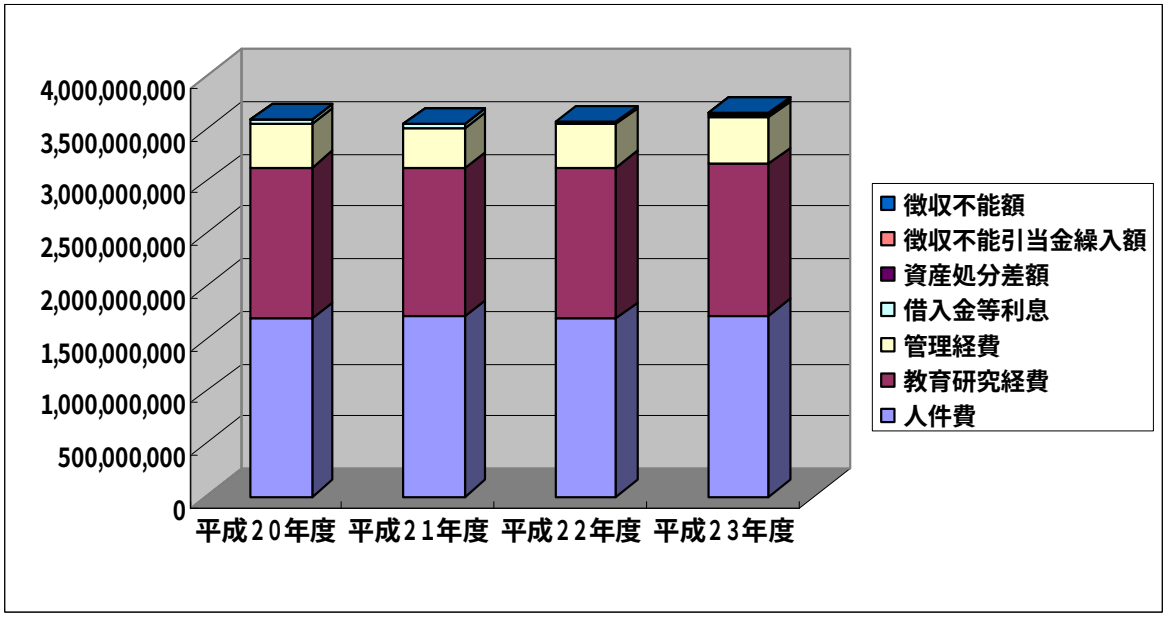
4 平成23年度 財務の概要

1) 概況

平成23年度決算では帰属収入が3,917百万円となり、昨年度の3,630百万円から287百万円の増加となりました。これは主に授業料の収入増と国庫補助金の増加によるものです。収入の主となる授業料収入は、入学者数が順調に推移しているため、増加を続けています。



一方、消費支出は3,655百万円で、昨年度の3,568百万円から87百万円の増加となりました。これは主に東日本大震災学費減免による奨学費の増加によるものです。
帰属収支差額はプラス262百万円で、昨年に引き続きプラスとなっています。



2) 資金収支計算書

収入の部、支出の部合計は予算額より4百万円増の5,552百万円となっています。

収入の部では、学生数及び授業料の全額納入者の増加による前受金155百万円の増加が主な収入増加原因です。結果として、次年度繰越支払資金が予算額より394百万円増となっています。

支出の部では、東日本大震災の学費減免措置に係る奨学費支出が100百万円、耐震改修工事費が262百万となっておりますが、全学的に支出の抑制に取り組んだ結果、4百万円増に抑えることができました。

3) 消費収支計算書

当年度消費支出超過額は予算に対して減少しています。これは消費支出が予算に比べて抑制できたことが原因です。

4) 貸借対照表

負債の部は長期借入金の返済が順調に進んでおりますが、平成23年度末に日本私立学校振興･共済事業団より「災害復旧経営資金」300百万円の借入を行ったため、平成22年度より175百万円増加しました。

平成20年度に導入したＢＥＭＳ設備のリース未払金及び平成22年度に更新した教育用機器のリース未払いについても順調に支払いが進んでおり、前受金を除いた負債率14.2%と、昨年度より0.2ポイント減少しています。

資産の部はデザイン工学実習棟Ｂの耐震改修工事、教職員会館の改修工事、映写室整備工事などにより、固定資産が増加し、資産の部合計は昨年度より 287 百万円増加の 15,718 百万円となっています。